

北海道のソイ・メバル類

北海道では、北海道日本海側を中心に多くの種類のソイ・メバル類が分布しています。岩礁域を主な生息場所とし、主に、刺し網、底建網等で漁獲されます。身は白身で美味しく、刺身、煮付け、塩焼き等で食べられています。

ソイ・メバル類は、交尾、出産する胎生魚であることが大きな特徴です。近年、天然資源が減少している種類もあり、増殖による資源の維持・増大への期待が高まっています。

主なソイ・メバル類



①クロソイ

日本海からオホーツク海に多い。成長は、ソイ、メバル類の中で最も良い。



②キツネメバル

日本海沿岸に多い。価格はソイ・メバル類の中で最も高い。味も最も美味とされる。



③エソメバル

北海道沿岸域に分布。通称「ガヤ」と呼ばれる。近年は、資源が減少している。



④ヤナギノマイ

日本海側に多い。体色は色鮮やかな橙黄色。海釣りでも人気がある。



⑤ウスメバル

日本海側南部に多く、本州方面にも出荷している。



⑥シマソイ

北海道沿岸域に分布。体側にくっきりとした縞模様がある。

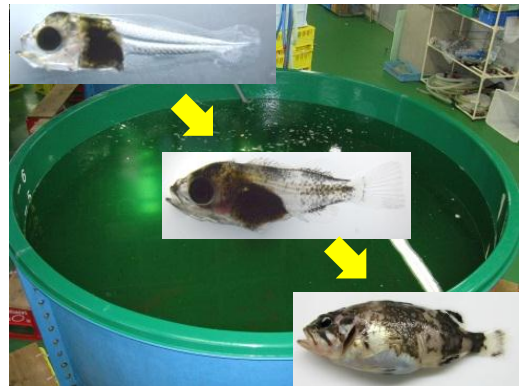
キツネメバル資源増大に向けて

【種苗生産】



①親魚養成

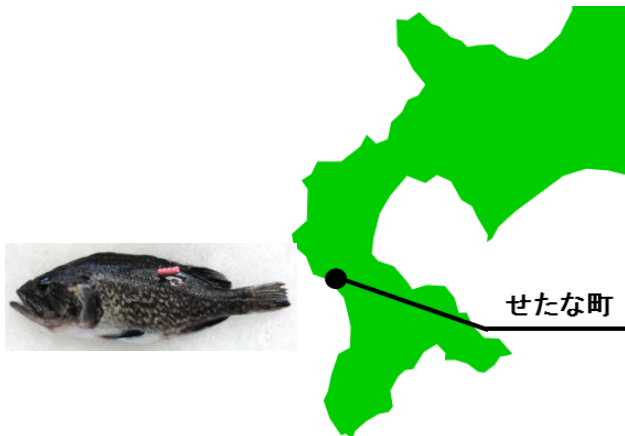
飼育水槽に雄を雌より多く收容することにより、水槽内で交尾が行われるようになった。



②仔稚魚飼育

仔魚收容から30日間を無換水で飼育し、60日後には全長30mmの種苗を70%の生残率で生産する技術を開発した。

【放流調査】



①放流

全長100mmまで中間育成後、スパゲティータグをつけて日本海南部のせたな町に放流している。

②再捕

放流した翌年から、放流地点周辺で再捕される個体が多い。



放流に適したサイズ、時期、場所を明らかにし、人工種苗放流による資源増大を図る。